

# ヒト血管腫瘍の分子病理学的研究

## 1. 研究の対象

国立がん研究センター中央病院で1962年から2016年までに血管腫瘍（悪性・良性・腫瘍類似病変）により、病理組織検査および摘出術がおこなわれた患者さんを対象とします。

## 2. 研究目的・方法

わたしたちの命を維持するのに重要な役割を果たしている血管を構成している細胞が腫瘍化する病気が血管腫瘍です。血管腫瘍は、頭頸部に比較的生じやすいですが、全身のあらゆる臓器からも発生します。血管腫瘍は、発生する頻度が低いために、希少腫瘍（希少がん）の一種ですが、数が少ない故に、世界的に病気の発生機序に関する研究が立ち遅れ、他の腫瘍（がん）に比べ患者さんにとって不利益な医療状況（効果的な治療法・診断法の不足）が生じています。

血管腫瘍の中でも悪性の血管肉腫は手術が難しく、生命の維持に欠かせない臓器に飛び火するため、治療が困難であり、さらに病気の診断に欠かせない病理診断に苦慮する場合も存在します。この困難を解決するためには、全く新しい治療戦略および補助診断マーカーの同定が望まれますので、血管肉腫を含む血管腫瘍の分子病理学的理解に研究の総力をあげる必要があります。希少腫瘍である血管腫瘍を患う方々への福音となることを目的に本研究を展開いたします。

目的はふたつあります。ひとつは、近年、研究代表者らがあきらかにしてきた血管腫瘍細胞でみられた現象を実際のヒト病理組織標本で確認し、治療標的を同定することです。ふたつは、病理診断が困難な場合において効果的な、補助診断マーカーの確立を目指すことです。いずれも、患者さんの診断・治療に還元しうるリアリティの高い研究の遂行を目的とします。

本研究は、1962年から2016年までに国立がん研究センター中央病院にて病理診断および手術が行われ、各種の血管腫瘍と診断された患者さんの検査・手術時に得られた標本のうち、検査が終了した残余組織から作製した病理組織標本をもちい、研究代表者らが近年あきらかにしてきた血管腫瘍形成に関与することが強く示唆される特異的なタンパク質の発現を免疫組織化学あるいはインサイチュ・ハイブリダイゼーションという病理学的研究手法を応用して精査します。この発現状況と、腫瘍の病理学的な特徴、患者さんの臨床情報などとの関連についても検索をおこないます。

研究実施期間：5年間

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：検査が終了した残余組織から作製した病理組織標本 等

情報：年齢、性別、病歴、手術・化学療法・放射線療法の治療歴、治療効果 等

#### 4. 試料・情報の公表

学術論文として発表するほか、研究内容を社会に公表するためプレスリリースなどを行いますが、公表に際し、個人を特定可能な情報は公表されません。

#### 5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立がん研究センター研究所 腫瘍生物学分野

荒川 博文（研究責任者）

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL：03-3542-2511（内線 4600）

FAX：03-3546-1369

E-mail：harakawa@ncc.go.jp